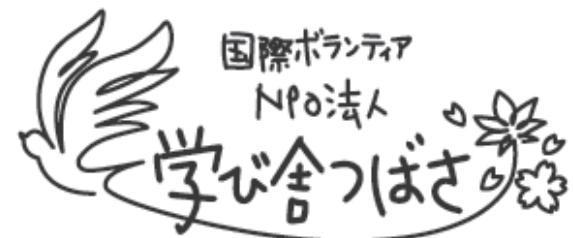


コンロンさん

あったかい雪の国 つめたいワタの国

原作 今本政勝 著「あったかい雪」
脚色・イラスト 志水ヒロミチ



Tổ chức Hợp tác Quốc tế tình nguyện NPO MANABIYA TSUBASA

この物語は西尾市に伝わる昔話を元に綿の伝来と西尾市の人々の交流を描いた絵本です。そして私たち NPO 法人学び舎つばさが理想に掲げる理念の一つ、「相手の文化を理解し尊重する。そして私たちの文化を知ってもらう」という心の架け橋プロジェクトの一環として絵本にしてみました。世界は違った人種、違った国、違った文化があり、混じり合って生活しています。絵本の中からそれらを読み取っていただけたら幸いです。

NPO 法人学び舎つばさ 代表 上田 衛

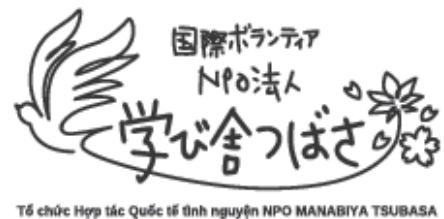
国際ボランティア NPO 法人 学び舎つばさ

日本事務所

〒460-0008

日本国愛知県名古屋市中区栄1丁目 22-16 ミナミ栄ビル 606号
TEL : 052-228-0673 FAX : 052-228-7829

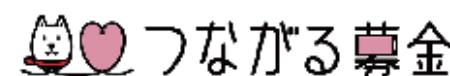
E-mail : kaiin@npo-tsubasa.or.jp



Tổ chức Hợp tác Quốc tế tình nguyện NPO MANABIYA TSUBASA

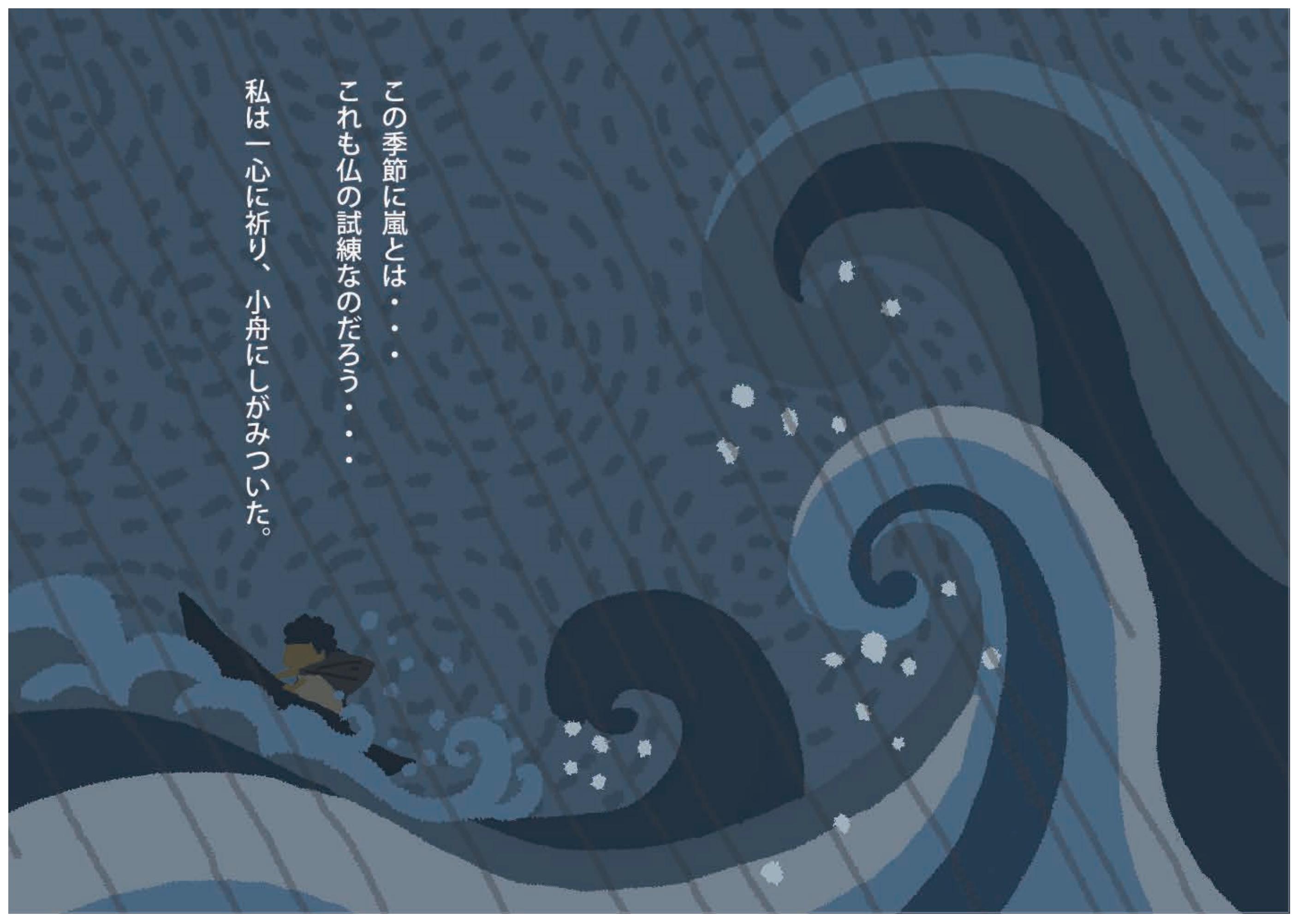
web サイト
<https://npo-tsubasa.or.jp/>

検索 NPO 法人 学び舎つばさ



クレジットカードからの寄付や、ソフトバンクポイントでの寄付、ソフトバンクの携帯料金からでの寄付をいただけます。
つながる募金とは→ <https://www.softbank.jp/mobile/service/tsunagaru-bokin/>





この季節に嵐とは…
これも仮の試練なのだろう…

私は一心に祈り、小舟にしがみついた。

嵐は三日三晩続き、

疲れ果てた私の頭上には満天の星空が広がっていた。

助かった！

そのまま私は気を失った。



う、ううん……

なにやら人の声が……

ゆっくりと瞼を開くと

少女が覗き込んでいた。

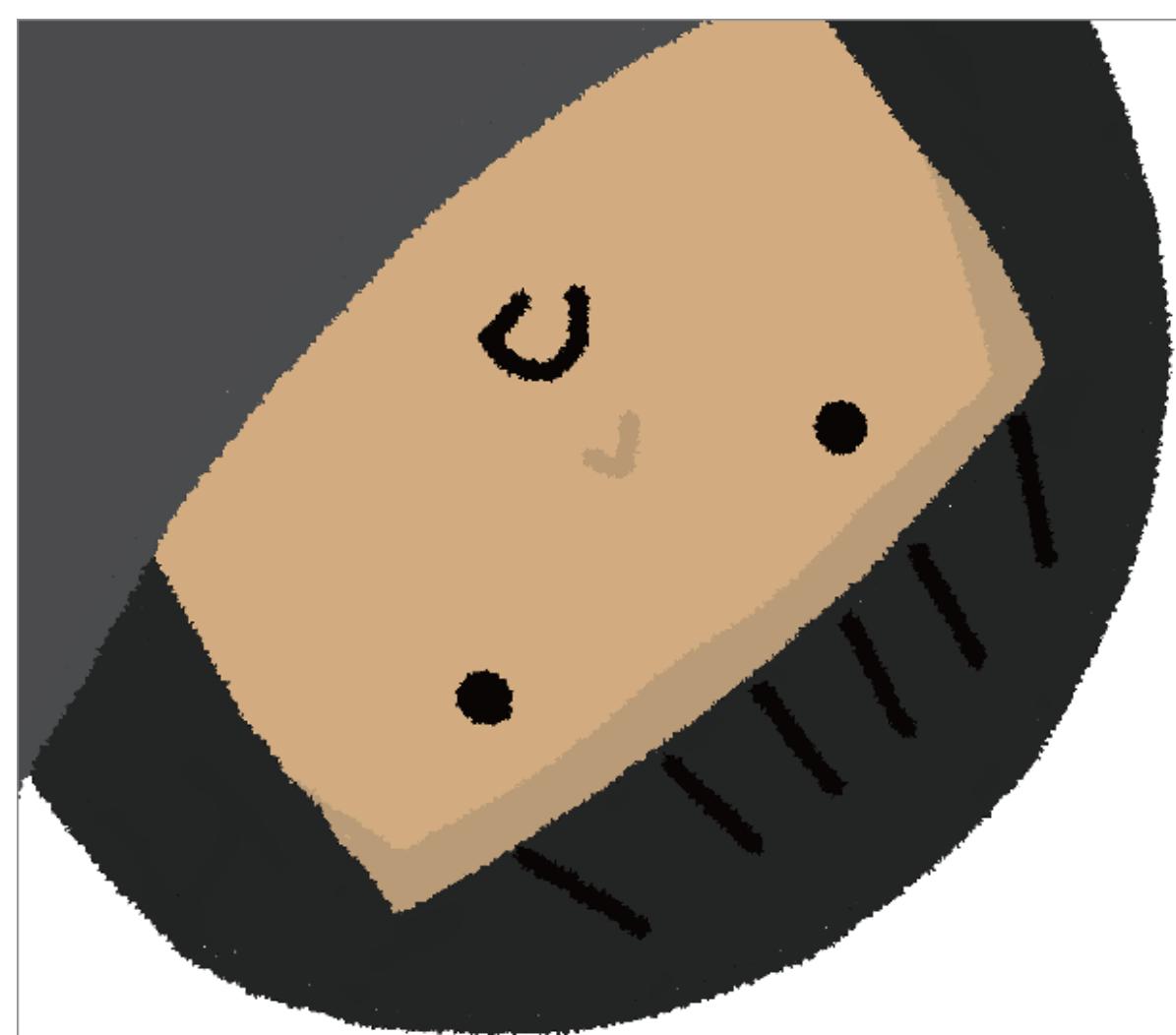
少女の背後には見知らぬ人々が、
やはり聞き覚えのない言葉で喋っていた。



どうやら外国に
流れ着いてしまったらしい。

ココハドゴテスカ?
ワタシテンジクカラキマシタ。
ダレカテンジクゴノ
ワカルヒトイマセンカ?

私の国の言葉で話しかけた。





するとある男が私を指差し
「コンロン！コンロン！」
と言つと
私を見つめていた少女は
私の手を取り
「コンロンさん！コンロンさん！」
と言つた。

私はこの国でコンロンと
名前になった。



村人に助けられ、
村外れの寺に
住まわせてもらうことになった。

村人は言葉の通じない
私にとても良くしてくれた。
私は村の畠を手伝うことにした。

「ゴンロンさーん！」

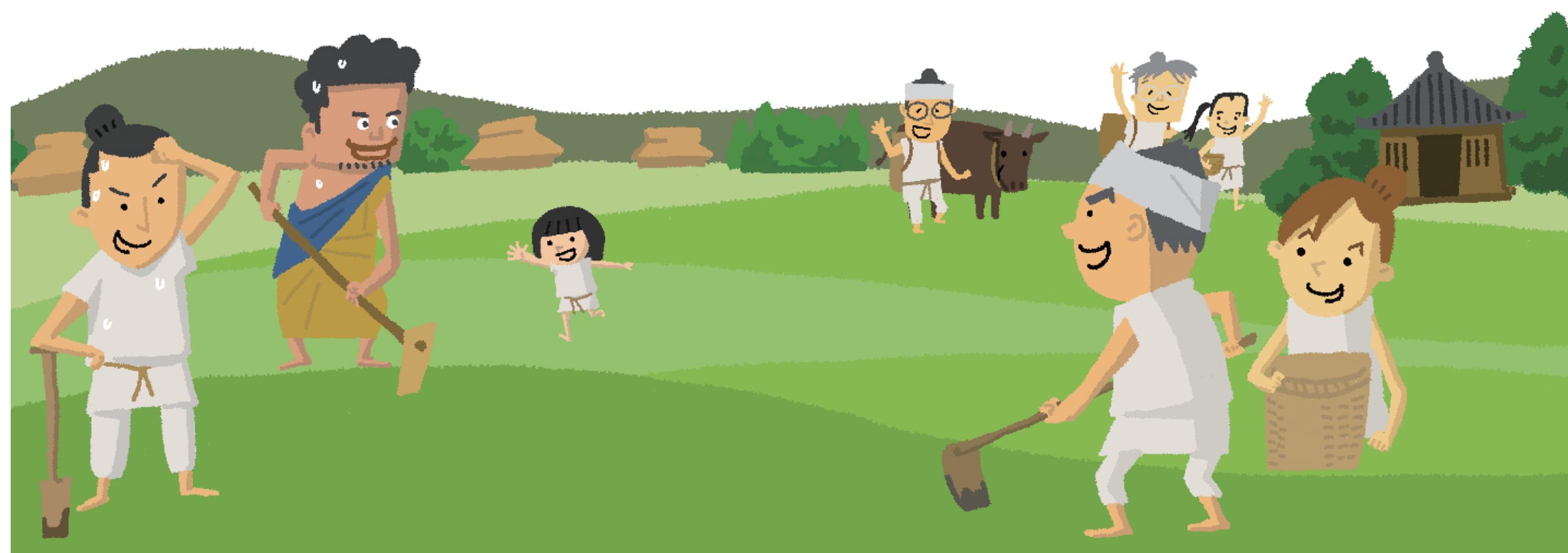
「あかね、オハヨウ！」

あの日

手を取ってくれた少女は
あかねと言い、
よく会いにきてくれる。

あかねのこと、

村人のことをもつと知りたくて
私はこの国の言葉を勉強した。





あかねはいろいろなことを話してくれた。

この国は日本という国だということ、
日本には四季があるということ、

あかねはおばあと

ふたり暮らしだということ、

浜で貝や昆布やワカメなどを獲つて

暮らしているということなど。

私も覚えた日本語で
私の国のこと話をした。

私の国は一年中暖かいこと、
色とりどりの花が咲き、
いろいろな果物が
獲れるということなど。

あかねと話すことで
故郷から遠く離れた淋しさを
和らげてくれた。





あかねはよく
美しい場所に連れて行ってくれた。
緑の草がたなびく丘や、
夕焼けでオレンジに染まる海などに。
その時は私は決まって
一弦琴を持ってゆき
故郷の歌を歌つてみせた。

だんだんと寒さを感じる季節になってきた時
空から白いものが降ってきた。



「えっ！？ 雪？」

あかねはびっくりした声で言つたあと
暗い顔になつた。

「雪は嫌いだ！」

「雪が降る時期になるとおばあは
体が痛くて動けなくなってしまう」

「雪が降る寒い日に

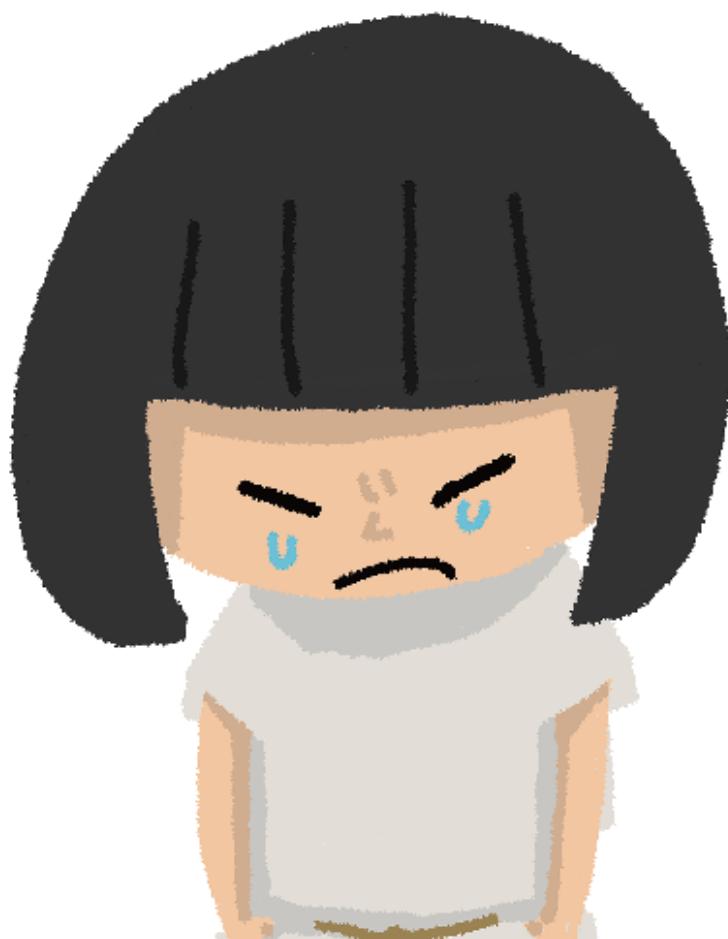
おかあが死んでしまった」



「雪が降る日には漁に出た
おつとうは戻ってこん・・・・」

「雪は嫌いだ！」

あかねはますます暗い顔になつた。



私は故郷の風景を思い出した。

「アツタカイユキ アルヨ！

エガオニナルユキ アルヨ！」

あかねは不思議そうに私を見た。

「テモ・・・アタタカクナラナイト、

アツタカイユキ、ツモラナイ・・

「ライネンマデ マッテクダサイ」

私はあかねにそう告げた。



さるに寒くなり、
雪が積もつた。
あかねはあまり
訪ねてこなくなつた。
村人もめつきり
訪ねてこなくなつた。

さらに寒くなり、
雪が積もつた。
あかねはあまり
訪ねてこなくなつた。
村人もめつきり
訪ねてこなくなつた。

白い雪を見ながら
私は琴を弾いた。
あかねに村人に
あつたかい雪を
見せてあげたいと歌つた。



寒い冬が過ぎ、
村に花が咲き、
動物たちも嬉しそうに
動き出した。

暖かな季節がやって來た。

私は壺を取り出し
恐る恐る蓋を開けた。

よかつた！ 中身は無事だったようだ。

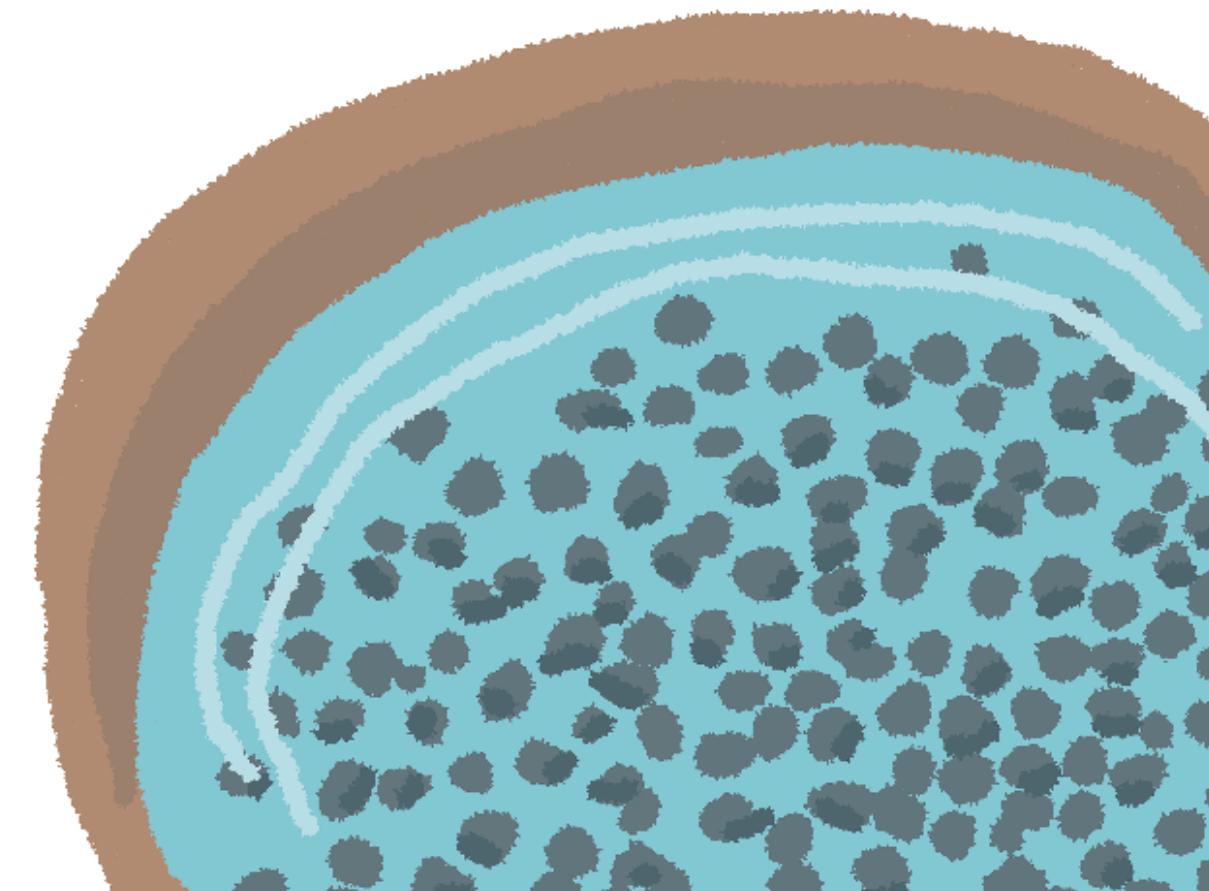


私は日当たりの良い場所を選んで
3センチほどの穴を掘る。

あかねも手伝って穴を掘った。

水につけておいたタネは
あの壺の中についた
私の故郷の植物のタネだ。

一つの穴に4粒づつ入れ、
ふんわりと土を被せる。



あかねは毎日水やりをしに来てくれる。

「コンロンさん、コンロンさん、
何が出来るの?」

あかねの問いかけに

「ヒミツ ダヨー!」と

笑つて答えると

ほっぺをふくーっと
膨らませた。

「コンロンさん、コンロンさん、
双葉が出たよ!」

畑いっぱいに

小さな小さな双葉が顔を出した。

「コンロンさん、コンロンさん、
こんなに大きく育ったよ!」

小さな双葉は

あかねの背を越すほどに
育つっていた。

ああ、もう安心だろう。

私は次の成長を楽しみにした。





「コンロンさん、
コンロンさん、
花が咲いたよ！」

薄い黄色の花が
畑いっぱいに咲き誇った。

村人も
見たことのない花だと
驚いていた。



やがて秋になり
冬の話題が出始める頃

畠の花は
花びらを落とし

桃のような実を付けた。

あかねがポツリと呟いた。

「また寒い冬がやって来るよ・・・

今年はおばあ大丈夫かなあ・・・」



「コンロンさん、コンロンさん！」

「まだ冬でもないのに畠に雪が積もつとるー。」

あかねが駆け込んで来た。



畠を見ると
一面真っ白に
覆われていた。

「ワタ ダ！」

あかねは
ビックリして
こちらを見ている。

「コレガ
アツタカイユキダヨ！」

あかねはあつたかい雪を手に取った。
「冷たくない！」
目を丸にして私を見つめた。

「コレ ミンナガ
エガオニナルユキ！」



私たちがあつたかい雪を収穫して、
あかねの家へと向かつた。

おばあが

少し辛そうに迎えてくれた。
おばあの

寝床に

あつたかい雪を敷き詰めた。

おばあはビックリ

「ラワフワであつたかじや！

不思議な雪じや！

あつたかな雪じや！

笑顔になつた！

私はあかねと

顔を見合わせ

ニッコリ笑つた。



残りのワタも村人に配り
この冬村人は
あたたかく過ごした。

あかねや村人の笑顔が
私の家族の顔と重なった。

「あかね、ワタシ トテモトテモ
ジブンノクニ コイシクナッタ・・」

あかねは寂しそうな顔になつたが、
すぐに笑顔でこう言つてくれた。
「私もおつとうが帰つてこなくて
とても淋しい。」

「コンロンさんの家族も
コンロンさんが居なくなつて
凄く淋しいと思う。」

私は私の国へ帰るため、旅立つことに決めた。

村人が温かな笑顔で見送つてくれたことが
涙が出るほど嬉しかった。



遠い遠い

日本という国では
空からワタが降つてくるんだよ！

それは
とてもとても

冷たくて

手のひらで溶けてしまうんだ！

私は故郷の村の子たちに
日本での出来事を語つて聞かせた。

村の子供達は

目をキラキラさせながら

私の話を聞いている。

おしまい。



6世紀から8世紀頃の アジアの交流

監修・東洋大学アジア文化研究所
客員研究員 新江利彦





コンロンさんはどこの国の人？



史料「日本書紀」に崑崙使（くろんのつかい）の筑紫国来航に関する記事がありますが、この崑崙がどこの国かわかつていません。「続日本紀」に遣唐使（遣唐判官）平群広成（へぐりのひろなり）の崑崙での遭難と崑崙王との謁見に関する記事があり、この崑崙は中国による遭難者救出報告「勅日本国王書」の内容から、林邑（インドシナ半島の東海岸、いまのベトナム中部）であることがわかっています。物語のコンロンさんは「日本後記」や「類聚国史」に見え、これらの史料にはコンロンについて唐人による他称・崑崙人（くろんひと）、日本語学習後の自称・天竺人（てんじくひと）と出てきます。中国の「通典」によれば、崑崙国は崑崙及び古龍（読みは「くろん」）を王号とする国々、具体的には扶南（カンボジア王国）や林邑（チャンパ王国）などのインドシナ諸国であり、チャンパ王国は北天竺とも呼ばれました。物語ではチャンパ王国の人（チャム人）のイメージです。



綿はこの時初めて日本に伝來したの？



奈良時代以前の史料の真綿（まわた）や木綿（ゆう）は、綿（ワタ、Gossypium, Cotton）ではなく、シルク（絹）やこうぞ由来の糸を指します。天竹神社の神さまである、物語の主人公コンロンさんこと新波陀神の新波陀（にいはた）は、奈良時代に新たに伝來した綿を真綿（絹）と区別するための新しい綿、新綿（ニイワタ）の意味かもしれません。古代のインドや東南アジア諸国では、綿はカルバーサ（吉貝樹）と呼ばれていました。「万葉集」の「白縫の筑紫の綿は身に着けて未だ穿きねど暖かく見ゆ」という和歌から、綿は七世紀初め（崑崙使の筑紫国来航ごろ？）に、いったん九州（筑紫国）に伝來しましたが、定着しなかったようです。そして残念なことに、十三世紀の「新撰和歌六帖題」の「敷島の大和にはあらぬ から人の植へてし綿の種は絶えにき」という和歌から、今回（八世紀末）の崑崙人（から人）による愛知県（三河国）や奈良県（大和国）への移植でも定着しなかったと考えられます。日本での綿の育成が定着するには十四世紀のモンゴル（高麗及び元）からの再導入後、戦国時代まで待たなければなりませんでした。

綿の歴史

コンロンさん & A



コンロンさんって本当にこんな格好だったの？



史料「日本後紀」に書かれている文章と天竹神社の御朱印状（神札）の絵からイメージした姿です。持っていた一弦琴はインドのエーカタントリ・ヴィーナで、「日本後紀」に崑崙人の持ち物として書かれており、綿打ちに使われた綿弓由来かも！？とのイメージです。他にも物語のためにイメージしたモノが色々あります。



奈良時代の人たちは何を着ていたの？



史料「衣服令」（えぶくりょう）によれば、奈良時代の無位の庶民は「黄ノ袍」（黄色い麻布の上着）を着ていたようです。真綿（いまの絹）は高価で、貴族しか着られませんでした。コンロンさんが伝えた綿も、庶民は着られなかつたようです。



コンロンさんは冬は寒くなかったの？



コンロンさんがベトナムのチャム人だったとすると、南国の人だったのと、とても寒かったでしょうね。日本の農民たちも冬はとても寒かったです。

綿の歴史 コンロンさん & A

Q ベトナムは雪が降らないの？

A 今のベトナムの方の山岳地方では雪も降りますが、中部から南部では雪は降りません（1年を通して気温は摂氏22-32度）。冬でも長袖のTシャツで過ごせるくらいです。

Q ベトナムで綿の栽培をしていたの？

A 中国の「冊府元龜」に、二～八世紀ごろのベトナム中部の林邑について、「林邑、吉貝を五色に染め、織って文様ある布を作る」と書いてあります。ベトナム中部では、林邑すなわちチャンバ王国だった時代から、農家では吉貝（カルバーサ）すなわち綿（ワタ）を栽培するのが当たり前だったようです。この文様のある布は、江戸時代に日本に輸入されて、チャンバぎれ（占城裂）と呼ばれ、茶器（なつめ）を入れる袋などに使われて、東京国立博物館などで展示されています。

Q コンロンさんは本当に帰国できたの？

A コンロンさんは愛知県（三河国）から奈良県（大和国）に移り、その後滋賀県（近江国）に移りました。帰国したという明確な史料がないため分かりませんが、帰国できていたら良いですね。

Q 天竹神社はコンロンさんが建てたの？

A 天竹神社は、愛知県西尾市に伝わる、綿の伝来時に綿の種が入っていたとされる壺が奉納されていた地蔵堂から、江戸時代に新波陀神を祭神として建てられた神社です。



綿の花



綿の種



物語のコンロンさんの参考にした天竹神社の御朱印状。



唯一綿の神様を祀る天竹神社



物語でコンロンさんの故郷としたチャンバ王国のチャム族の民族衣装

まだまだあるよ！

ベトナムとの縁



伊勢うどんとカオラウ

ベトナム、ホイアンの名物麺料理の「カオラウ」のルーツが伊勢うどんでは!?
との言い伝えがあります。

ベトナムの中部に古い町並みなどが残る、観光客で賑わうベトナム有数の観光地ホイアンという港町があります。

昔は貿易のため多くの日本人も暮らしていて日本人街もありました。
しかし江戸時代になり幕府により鎖国された日本、多くの日本人がベトナムに残されました。

そしてこの地、ホイアンの名物料理「カオラウ」、どこか伊勢うどんの趣が！？
ベトナムに残った日本人が故郷の伊勢を思い出して作ったのが「カオラウ」との話があります。



「カオラウ」

ベトナム中部、ホイアンの名物料理
ホイアン三大名物のひとつ

ベトナムで一般的なフォーの様な平たい麺ではなく、太めのコシのあるうどんのような麺に醤油ベースの甘辛いタレを絡めて食べます。
豚肉、揚げワンタン、香草などがトッピングされています。
お店によってアレンジが大分違うみたいです。

日本の雅楽にベトナム音楽が!?

日本の伝統楽曲の雅楽にベトナムから伝わったと言われる雅楽があります。
林邑八楽(りんゆうはちがく)という八つの楽曲と舞踊です。

奈良の大仏開眼供養(752年)で導師を務めたインドの僧と共に来日した、
林邑僧(チャンパ僧)によって林邑八楽という雅楽の楽曲と踊りが伝わったと、東大寺に記録が残っています。林邑八楽は大仏開眼供養で披露されたと伝わっています。

※林邑(りんゆう)とは中国がまだ隋の時代にベトナム中部にあったチャンパ王国の中国での呼び名です。



コンロンさんも奈良の大仏を見たかもしれませんね！

ベトナムのお姫様が日本にお嫁入り！

ベトナムの王女アニオー姫が長崎の商人に嫁いだ物語が日本のお祭りに残っています。

荒木宗太郎は、安土桃山～江戸時代にかけての御朱印貿易商であり、長崎から広南国（現在のベトナム中部）へ赴き、広南国の阮福源王から信頼を得て王女・玉華姫と結婚しました。御朱印船は、16世紀末から17世紀初頭、当時の為政者からの海外渡航許可証（朱印状）を得て、ベトナムなど主に東南アジア方面との交易を行った船。宗太郎は、玉華姫を正妻として長崎に迎え、姫は長崎の人々から「アニオーさん」として親しまれ、生涯を長崎で過ごしたのです。アニオー姫の輿入れの様子は、今も長崎の祭事「長崎くんち」において、7年に1度「御朱印船」の演目で再現され続けています。